

富士山麓・大淵丸尾溶岩流上流部に世界最大の縦型溶岩樹型を発見

2017年11月18日、NPO 法人火山洞窟学会は、富士市の入山許可を得て、富士市の市有林内にある大淵丸尾溶岩流上流部の調査を行い、世界最大級の縦型溶岩樹型の存在を確認した。縦型溶岩樹型は写真に示すように、短径 4.8m/長径 5.7mの縦樹型（溶岩深さ：最深 3.6m、最浅：1.6m）である。それまでの世界最大の縦樹型は、富士山・柏原溶岩樹型群の短径 3.68m/長径 4.3mであった（参考文献1）。



大淵丸尾溶岩流 (AD850-920) は日本ランド溶岩流 (BC2000-1700) および一部勢子辻溶岩流 (BC3000) の上層にあり (参考文献2)、3)、3000年をへた樹林帯に溶岩が流れ込んだと考えられる。噴火と噴火の間の長い期間、樹木の成長しやすい温暖な気候と湿潤な環境のため巨大な樹木が生育していたと考えられる。

参考文献：

- 1) 小川孝徳 監修(1997)：山梨県富士山北麓柏原溶岩樹型群観察報告書, 日本洞窟学会火山洞窟学部, 富士山火山洞窟学研究会 編集、サカエプリント社
- 2) 小川賢之輔(1986)：富士市域の地質及び地形、「富士市の自然：富士市域自然調査報告書」、富士市、1986年
- 3) 高田亮ほか(2016)：富士火山地質図(第2版)・説明書, 産業技術総合研究所